

和の光

宝塚市立西谷中学校



■修学旅行に行ってきました その2



海外からの観光客にインタビュー（東京ソラマチにて）2025.05.11



みんなで仲良くアイスを食べました（東京ソラマチにて）2025.05.11

東京スカイツリーの展望台から都心の絶景を眺めた後、班ごとにショッピングモールを散策しました。事前に調べていたキャラクターグッズやお土産を買って楽しいひと時を過ごしました。また、英語科の課題「修学旅行中に出会った海外の方に英語でインタビューをしよう」に取り組む姿も見られました。



修学旅行の思い出に記念撮影（TOKYO SKYTREEにて）2025.05.11



自分へのご褒美を買いました（東京ソラマチにて）2025.05.11



お土産を買いました（東京ソラマチにて）2025.05.11



散策を満喫しました（東京ソラマチにて）2025.05.11

中学3年生と高校受験

私は、受験期の中学生が、いちばん好きです。などという、いま心配でいっぱいのお母さん方からは、ひとごとだと思って、と反発されるかも知れません。

なぜなら、前にも述べたように、「打てば響く」からです。自立を前にして高まる。子どもの胸の鼓動が聞こえるからです。この時期には、これまでできなかったこともできます。たとえば、生活のリズムを確立することもその一つです。

いま、2学期の中間テストを終えて、中学での勉強のまとめに入る時期に、何よりも大切なのは、一日一日の授業をしっかりと受けることです。朝9時ごろから始まるこの一時間一時間にベストコンディションで取り組むためには、少なくともその2時間前には起きて、体を動かしておくことが大切です。

学校の授業とは別に、自分で組み立てた勉強のシステムを持つことは望ましいのですが、何よりもまず、5～6時間の授業そのものにおいて、最も活動的であり、積極的であることの方が大事です。そこでの緊張した一刻一刻が子どもの力になります。知能を鍛えます。生活を規律あるものにする意味が、子どもにいちばん納得されやすいのがこの時期ではないでしょうか。

もちろん、そんなにすんなりといくとは限りません。でも、多くの子どもたちは、厳しい条件の中でも、いま、発達への欲求をうずかせながら、苦闘しています。襟を正し、悩みも喜びも子どもと共感しつつ、親・大人としての責任を、どう果たすべきか考えましょう。子育てこそは、親が育てられる場なのです。

この文章は、「中学3年生と受験期」という新聞のコラムに載っていたものです。保護者の皆さんもご自身が中学生の頃、受験に対する不安を多少は持たれていたのではないのでしょうか？ 特に中学3年生の1年間は「進路に対する希望や不安」で心が大きく揺れる時期です。また、子どもたちは、自立に向けて精神的に最も成長する時期で、私たち教師や大人が子どもの心に寄り添い、自分事として生活や学習の在り方、進路について考えていくことが大切だと思います。

頭ごなしに叱ったり、子どものことを否定したりするようでは、子どもは何も変わりません。私たち教師や大人が、いかに子どもの心を理解し、共に考えていけるかが、一番大切なことだと思います。そうすれば、必ず私たち教師や大人の思いが子どもに伝わります。打てば響く、そんな関係がつかれるように努めたいと思います。

校長 筒井 啓介